

The Reminiscence of Exellia NG+1

目指せ、隠れ家の工業化！

作成レギュレーション

基本概要

- ・ 経験点：88500 点（新規）、95000 点（継続）
- ・ 資金：87000G（新規）、96000G（継続）
- ・ 名誉点：1500 点（新規）、1800 点（継続）
- ・ 成長回数：144 回

各種制限について

- ・ ヴァグランツ禁止、蛮族 PC 禁止
- ・ SW2.0 / 2.5 標準流派入門禁止、標準流派の秘伝の習得・使用禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限（宿り木の棒杖、楔石強化を除き全面禁止）
- ・ レベル制限 8～9
- ・ シナリオ報酬の成長回数が 10 以上のときの、60%以上の偏重割り振り（極振り）禁止

動画用の参考資料

セリーヌ・シャルロッテ・クレア・ゼーゲブレヒト・アウエア

読み上げ：VOICEPEAK「東北きりたん」のピッチ調整

（現代生まれであるにもかかわらず）ノーブルヴァルキリー古代種。

「大空洞に潜むモノ」の 3 人衆（ファミル（リーダーと思しき男）、ハレク（暢気な子分の男）、マルネク（律儀な子分の男））

読み上げ：未定

それぞれ、FF16 の同名人物と同じ。

ファミル＝「異星のいい男」、ハレク＝「真面目そうな弟分」、マルネク＝「気弱そうな子分」。よって、「空の残響」時と「海の慟哭」時の 2 種の立ち絵が存在。

本シナリオにおいては、「空の残響」時の立ち絵が動画にて使用される。

煌衣纏いしシャガルマガラ

読み上げ：なし

薪の王のように、炎を纏ったシャガルマガラ（隗異克服個体とは異なる）

呪いの王、モルゴース

読み上げ：なし

色彩のない、爛れた樹霊

呪いの尖兵、ヴァージニア

読み上げ：未定

翼が壊れた、歴戦の魔動天使。

メモ群

エルバースラズ大空洞入口での探索判定：獣の痕跡

明らかに竜の爪で引っ掻いたような痕が残っている。

この痕跡を用いて魔物知識判定を用いることができるが、その達成値に-6のペナルティ修正を受ける。

エルバースラズ大空洞入口での探索判定：鉱脈の分布

黒色の鉱石があるようだ…。

確かにここは、タングステン鉱が掘れる鉱脈であるのだろう…。

『エルバースラズ大空洞-空亡』での演出について

エクセリア：種族特徴「血の刃」+巫覡 LB3「断罪の業炎」

トーレス：機工士 LB3「サテライトビーム」

ノーブルヴァルキリーの特徴・生殖について

大前提として、『ノーブルヴァルキリー自体が女性しかいない種族』である。

また、ノーブルヴァルキリー古代種は、特定の条件が整わないのであれば、必ず現代種が生まれる。成人年齢は、古代種で20歳、現代種で10歳。通常種の場合、常人や通常のヴァルキリーよりも早いペースで成長する。

ノーブルヴァルキリーの共通特徴として、「寿命不明」「女性しかいない」「男体化した場合は種族特徴が失われる」「平均2対の光の翼」の4つの特徴を持つ。

また、ノーブルヴァルキリー現代種については寿命が大まかに判明しており、「平均200歳」。

ノーブルヴァルキリー古代種の場合、「寿命が不確か」になり、また「平均 3 対の光の翼」を持つ。貴族の支配力など、主にノーブルエルフが持つ能力は持たないし及ばない。よって、アリストクラシー習得不可。

現代において、ノーブルヴァルキリー古代種が生まれうる掛け合わせは以下の通り。

- ・ ダークドワーフ×ノーブルヴァルキリー（母胎の分類を問わない）
- ・ ナイトメア（ソレイユ）×ノーブルヴァルキリー（母胎が古代種）
- ・ アルヴ×ノーブルヴァルキリー（母胎の分類を問わない）
- ・ アビスボーン×ノーブルヴァルキリー（母胎の分類を問わない）
- ・ ミアキス×ノーブルヴァルキリー（母胎の分類を問わないが、古代種ならば高確率）

過去視：ルーシディティ・ホワイト計画の全貌

…過去視が映したのは、2 年前のヴァルマーレ。

そこで、蘆田とエクセリア…、そして、リリアーナとセリーヌがいた。

蘆田

「…それで、なんなんだこの計画書は」

エクセリア

「やがて現れるであろう…『律』と、それがもたらす災厄に抗うためのものだ」

蘆田は、計画書の中に記された、大量の砲台について指摘する。

蘆田

「…ここまで砲台を置かないと駄目なレベルなのか？」

エクセリア

「ああ…。厄介なことに、奴はラクシアの質量を単位とするとんでもない兵器をバンバン使ってくる。現段階で、今のラクシアにできる技術力を結集させた場合…この砲台が限度なんだ」

セリーヌ

「おかあさん、なにいつてるの？」

リリアーナ

「少し黙っていようね？セリーヌちゃん？」

リリアーナによって、セリーヌがドナドナされていったのを見た蘆田が、呆れ返ったかのようにエクセリアに言う。

蘆田

「子供を守るために躍起になってると言うことか？」

エクセリア

「そうそう。…あのじゃじゃ馬娘を守るためにも、律への叛逆は必要なんだ」

…過去視はここで終わっているようだ。

クエスト：題名なし

依頼主：（空欄）

依頼概要：（空欄）

依頼報酬：ひとりあたり 20000G

依頼内容：

滅びを厭という、お前達への挑戦だ。

お前達を肉塊に変えることで、俺は俺の存在意義を証明する。

この依頼を断るならば…、今度は時すらも止めて、この惑星を破壊するでしょう。

受諾することを待っている。

導入

巫女の娘とセクゾアルの英雄

——遡ること、半年ほどではないが数ヶ月前…。

ケーシス・シャルロッテ・クレア・アウェアと、その伴侶にして、当代のアウェア家当主たる『最果ての聖王』の間に生まれた少女、セリーヌ・シャルロッテ・クレア・ゼーゲブレヒト・アウェアは、その名に『ゼーゲブレヒト』の名を冠するとおり、聖王の後継者となることを期待された少女だった。

が、果たして彼女に『最果ての聖王』の座が、彼女に合うのかどうか…。

どちらに似たかは不明ではあるものの…学識の割にわんぱくだった。

足の速さは父に似たのかもしれない。

アウェア家の侍女

「お嬢様、お待ちください！」

セリーヌ

「嫌ですわ！私は捕まりません！いい加減諦めてくださいませ！」

そう言って、セリーヌはナリューファ市場街の中で最も大きな邸宅から身を乗り出す…
どころか、フェンスを乗り越えて飛び降りる。

アウェア家の侍女

「…昔の奥様と、同じ飛び降り方を…！」

そうして、彼女はある者に迷惑をかけることになった。
勿論、エクセリアにとって頭痛の種になる話である…。

<hr>

その日はアレルヤに、彼女はちょっかいを出していた。

セリーヌ

「見つけましたわアレルヤ！」

アレルヤ

「君…また家を抜け出してきたのかい？」

セリーヌ

「お母さん達は過保護すぎるんですの！女の子らしくお淑やかにお勉強とお裁縫なんて私
には性に合わないんです！」

「手合わせしろー！」と駄々をこねるセリーヌを見て、呆れているアレルヤ。そこに、
アレルヤにとっては聞き馴染んだ声が響く。

ハレルヤ

『相棒…。理由を訊くとかすればいいだろ』

アレルヤ

「そうだね…。そもそも、なんで君は双刀に拘るのかな？君は、両親から戦わなくてもいいように、学問の道を進められているんじゃないのかい？」

セリーヌ

「…お母さんがどんな気持ちで双刀を握っていたか、知りたいんです」

その言葉を聞き、戸惑うアレルヤに代わるように、ハレルヤが表面化する。

ハレルヤ

「どんなもクソもねえよ。あいつは、戦うしか路がなかったんだ。おめーの両親は、やがて平和になる世界に於いて必要になるであろうことを教えてくれているんだろ？子供が戦おうだなんて思わなくてもいいってなァ」

しかし、ハレルヤの煽りでも、セリーヌが木刀を収めることはなかった。

ハレルヤは盛大にため息をつくと、セリーヌに向き直る。

ハレルヤ

「…全く。頑固なところまで親に似たってかァ？ついてこい、その広場だ。

知ろうとする気持ちだけは買ってやるよ。先に言わせてもらうが、あいつは俺達よりもウン千倍は強い巫覡だ」

…その後、アレルヤはエクセリアからとんでもないレベルのカミナリを受けたことは言わずもがな。それと同じくらいには、セリーヌも凄まじいレベルのカミナリを受けたことは実際そうだった。

エクセリア

「私が物語の中の人のように見えた？私は現場を退いたのは、出産と離乳までの育児で離れざるを得なかった２年前以外にはないぞ？

まあ、歴史書のあちこちにアウェア家の名前が出てきては、流石に怖気付かないわけがないか」

ある程度は理解のあったエクセリアは、セリーヌに対してその程度の擁護はしたものの…それを補ってもアレルヤへのカミナリと同等の密度の説教をしたのは事実だった。

<hr>

それはさておき、だ。

エクセリアの娘、という、君達の予想の斜め上を征く彼女は、君達を見てつまらなさそうな表情を浮かべていた。

(※GMメモ：RP待機)

セリーヌ

「出入り自由になったとはいえさあ、お母さんの私室には入るな—とか、色々と制限が厳しいし、おまけにお母さんがいないし…。とにもかくにもつまらないの」

トーレス

「お嬢…俺が言うのもなんだがな。対峙する者の気持ちになってみる」

「彼らは『なぜ退屈の憂さ晴らしで相手をしなければならないのか?』と、思うはずだ。

戦いたかった、鍛えたかった、磨きたかった、争いたかった…。そういう指示だった、因果だった、興味だった。君はそう思うやもしれんが…、無欲すぎるのも考え物だが、君の場合は強欲すぎる」

「嘗ての私も…私の部下もまた、強欲すぎた…」

(※GMメモ：RP待機)

(※動画用メモ：トーレスの斜体セリフは、グラを狂気混じりのものに変更する)

トーレス

「『欲は程々にしろ』。4年前、君の母であるエクセリアに言われたことだ。1000万を救うために100万を殺し、300人を狂気に堕とす…。それは強欲によって成立した、狂った計画なのだと。それで、俺にかかる狂気が祓われた」

そう言って、彼は手元の紅茶に映る、狂気に堕ちた己を見て、過去を顧みる。

トーレス

「君を見ていると、嘗ての俺を反芻せざるを得ない。…100万を救うより先に、身の回りにいる300人を救う。力ではなく、温情を以て。俺もまた、目先の救済で救われた人間なのだと、再三聞かされていたものでな」

危険感知判定 目標値：21

成功時、初期微動を感じる。

トーレス

「なんだ…? こんな黒の真っ只中で、地震…?」

大空洞に潜むモノ

同刻。

エルバースラズ大空洞にて、タングステン鉱を掘っている３人組の男たちがいた。

リーダーと思しき男

「ようし、もう十分採れただろう。お前ら、そろそろ引き上げるぞ」

律儀な子分の男

「はい」

暢気な子分の男

「うす」

彼らが、エルバースラズ大空洞に来ている理由——それは、《暗魂の暁》にタングステン鉱を納品するためだった。

リーダーと思しき男

「こいつをギルドに納品して、もうひと稼ぎだな」

そのとき、地震が発生する。

リーダーと思しき男

「なんだ、地揺れか？」

彼がそう言った直後、突発的な爆発音にも似た轟音と共に、地面が突き上げられる。

その拍子に、リーダー格の男はランタンを落としてしまう。

律儀な子分の男

「アニキ、明かりが消えちゃった…！」

リーダーと思しき男

「心配するな、大丈夫だ」

そう言って、彼は魔法を唱え、光の球を浮かべる。

リーダーと思しき男

「太陽神ティダン様の加護あってのものだなあ。…最も、最近は古代神の力でさえ、弱々しくなっちまってるが…」

その直後、獣の咆哮が空間に響き渡る。

暢気な子分の男

「なんだか、いつもより気味が悪い…」

律儀な子分の男

「アニキ、早く出よう…」

リーダーと思しき男

「今から地上に出るのは億劫になるが…分かった。がつつり稼いで、美味しいもんでも食うとするか。それじゃ——お先に！」

そう言って、リーダー格の男は走り出す。

それを見て、慌てて走り出す子分の男たち。

——エルバースラズ大空洞の地下で、蠢くものがあつた…。

地揺れ

トーレス

「この辺りで地揺れとは…珍しいな」

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「ヴァルマーレでも地震はよく遭遇していたが…、大陸で遭遇することは、滅多になかったのだから…」

そこへ、エクセリアが駆けつける。

セリーヌ

「あっ、お母さん！」

エクセリア

「…地震が起きたようだが、大丈夫か？」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「今は、木工師や鍛冶師、甲冑師の面々が、総出で隠れ家の点検を行っている。…にしたら、前の地震から1日も経ってないぞ…？」

そう言って、エクセリアは『今日起きた地震』を手帳に記す。
その後、獣の咆哮が空間に響き渡る。

セリーヌ

「お母さん！外を見て！」

エクセリアが視界を隠れ家の外に移すと、隠れ家の南西にある大穴が、妖しく光っているように見えた。

エクセリア

「あの方向…、まさか…？」

その数分後、隠れ家に駆け込んでくる音が聞こえる。

リーダーと思しき男

「大変だ、大変だ！」

ローブを着込んだ、3人の男。

そのうちの、リーダー格の男が、エクセリアに直談判をする。

リーダーと思しき男

「化け物が出たんだよ、タングステン鉱脈によぉ！」

エクセリア

「化け物…だって…？」

<hr>

エクセリア

「…なるほどな…。大まかな事情は分かった。採れた分は納品してもらおうとして…、獣の咆哮を聞いたときに、嫌な予感がしたからここまで逃げてきた、と…」

エクセリアが、彼らに降りかかった災難をかいつまんで纏める。

彼ら…リーダー格のファミル、暢気だが真面目な弟分のハレク、律儀だが弱気な子分のマルネクの３人は、商工会からの斡旋で受けた『タングステン鉱の採掘』を終え、帰ろうとした矢先に…地揺れに遭遇し、獣の咆哮を聞いたようだ。

エクセリア

「…本来であれば、そこを捨てるのが普通なのだろうが、あそこは私達にとっては重要な採掘拠点だからな…。ファミル、お代は取らんから、依頼として回してくれないか？…こちらとら、このわんぱく娘の育児で手が離せないからな」

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「お前は行かないのか？」

エクセリア

「…セクゾアルの英雄様も、なかなか暢気なことを言うものだな。私が出張ると、セリーヌが何をしでかすか分からんからな…。代わりに、お前が行けばいいんじゃないか？」

トーレス

「俺が！？」

(※GMメモ：RP待機)

謎の指名により、虚を衝かれたトーレスを尻目に、エクセリアは中々キツイ煽りをトーレスにする。

エクセリア

「それとも、『三本線』に殺されたいのか？」

トーレス

「ぐっ…、私が嫌がろうとすると、すぐに出すな、その名前…」

エクセリア

「『空に三本線は凶事なり』。ヴァルマーレではよく言われていたことじゃないか」

そう言って、エクセリアはセリーヌを『憩いの広場』へと連れて行った。

トーレス

「…やはり、『虚憶』には抗えんな…」

1 日目：エルバースラズ大空洞

その大空洞には、厄ネタが大量に転がっていた。

やれ伝説の黒龍が世界を焼き払っただの、黒い天馬が天災にてその集落を大穴に飲み込んだだの…。大穴の原因が、上陸した海底火山の噴火によって齎された災禍だの…。

兎にも角にも、「災禍があった」という事実がすべてを物語っていた。

トーレス

「これが…エルバースラズ大空洞…。話によれば、この大空洞は未曾有の大災害によって作り出されたものだという…。だが、なんだ…？」

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「あまりにも、悍ましい気配を感じる…！」

ホクトクラフト

『当たり前だ。ここは我が領域…。並大抵の人間では、ここへ立ち入るのも憚られる』

そこへ、黒い霧に包まれたヒトガタの存在が現れる。

(※GMメモ：RP待機)

ホクトクラフト

『凡人が神の気配を感じぬのもまた道理。俺が、あらゆる理の全てを打ち消そうとしているのだから』

そう言って、ホクトクラフトは獣をいくつも創造する。

ホクトクラフト

『古より使ってきた理に歯向かわれる感覚を、とくと味わえ』

敵：神喰らいの獣×4

君達は、獣を討伐した。それらは悍ましい言葉を吐き散らした後、黒い腐汁を撒き散らして消滅した。しかしまだ、君達は獣の気配を感じるだろう。

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「あんな獣が、まだいるのか？やれやれ、空がこの流星模様になってから、ずっとこんな有様ではないか」

ホクトクラフト

『それでも、お前達の意志を砕けぬと言うのか』

(※GMメモ：RP待機)

ホクトクラフト

『では、お前達の、その金剛の如き硬さの意志を、溶かさせてもらおう』

そう言って、黒い気配は奥へと消える。

トーレス

「元凶は奥へと行ったようだな」

PC たちはここで、このような行動をとることができます。

- ・ 洞穴入口での探索判定（獣の痕跡探し）
- ・ 洞穴入口での探索判定（鉱脈の分布探し）

探索判定 目標値：21 / 23（獣の痕跡 / 鉱脈の分布）

(※GMメモ：

目標値 21 の探索判定に成功した場合、

「メモ群-エルバースラズ大空洞入口での探索判定：獣の痕跡」を解放

目標値 23 の探索判定に成功した場合、

「メモ群-エルバースラズ大空洞入口での探索判定：鉱脈の分布」を解放)

君達は、獣の痕跡を頼りに、更に深い場所へと向かうことになる。

空洞の底へ（checkpoint 1）

君達は、空洞の底を目指して坂を下っていった。

トーレス

「この大空洞は、元々自然の要衝としてできていたと聞くんが…、そこに、最近起きたあの地鳴らしか…。ここを見るだけでも、それが嫌と言うほど想像できてしまう」

下に潜るにつれ、そこにある景色が超自然的ななにかへと変わっていく。

君達の目の前に、黒い霧が現れる。

危険感知判定 目標値：22

成功時、先制判定を行うことができる（失敗時は強制的に自動失敗とする）。

ホクトクラフト

『身の程を知れ！』

敵：煌衣纏いしシャガルマガラ

君達は、黒い霧から現れた獣の征伐をも成し遂げた。

そこへ、天から見下ろすような形で、ホクトクラフトが再度現れる。

ホクトクラフト

『…ここまでしても、お前達の自我は固いと…！ならば、確実に…滅ぼす！

さあ、俺の悦楽のために死んでくれ！！』

そう言って、それはなにかを呼び出そうとする。

しかし…詠唱開始の直前、赤い羽根が舞い散った…と思って瞬きをしたのなら…、ホクトクラフトの首が、宙を舞っていた。

エクセリア

「あまり面倒をかけさせるなよ、ホクトクラフト。面倒が加速する」

そう言って、君達の元へ舞い降りる。

その刹那、君達は、3対6枚の光の翼が、エクセリアから生えているのを見ただろう。

ホクトクラフト

『…だが、俺は死なない』

しかし、それ以上に…《《斬り飛ばされたはずの首が》》、《《自然と元の位置に戻っている》》ホクトクラフトを目にした衝撃が大きかっただろう。

ホクトクラフト

『お前達はなぜ抗う。なぜ、なぜ俺に気持ちよく世界の破滅をさせてくれないんだ！

お前達など、破滅という結末を描くだけの端末であり駒に過ぎない！お前達の自我は、ただ俺に侮蔑され滅ぼされるだけの、小さな揺らぎに過ぎないというのに！』

(※GMメモ：RP待機)

ホクトクラフト

『…まあいい。ここで駄々をこねたところで仕方はないだろう。

最初の終わりと同じように、あらゆる理を無視して、この惑星ごと光に還してやろう』

彼がそう言うと、唐突にエルバースラズ大空洞の上空が金色に輝き出す。

(※GMメモ：BGM「ゴルディオンクラッシャー」)

ホクトクラフト

『エクセリア、お前には分かるだろう。俺が成そうとすることが、一体どういうことなのか！』

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…何を狙っている…？」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリアの発言に、ホクトクラフトは困惑したような表情を浮かべる。
そして、彼女は言った。

エクセリア

「私の記憶には…たとえ虚憶の中であろうと、お前が行おうとする滅びはない。お前がどのような意図で、それを起こしているとしても…お前の記憶では、私に抗う力がなかったのだろう？ならば…！」

エクセリアはコズミック・キューサーに顕現し、そのまま飛翔する。

エクセリア

『これで……………！ブチ抜く！！』

ホクトクラフト

『ええい、お前達全員…光になれエエエ！』

光の巨槌が振り下ろされる。しかし、光の速度を超越した、一筋の杭——コズミック・キューサーが、光の巨槌を破壊し、根本にいた黒鉄の巨神を破壊した。

青き星を背に、彼女は目の前に在る巨大な存在に対面する。

ホクトクラフト

『まさか…いよいよ俺の本体に辿り着いてこようとは…』

(※GMメモ：RP待機)

その威容は地上でも見る事ができた。

青き機神。それが、君達を見下ろしていた。

ホクトクラフト

『星は砂箱、命は駒。俺が律である限り、宇宙をも砂箱として弄ぶ…。』

畏れ敬い、ひれ伏せ。そして従い奉れ…！無限に宇宙が拡がるならば、その宇宙全てに届けよう…！『この宇宙は、俺のものだ』。主の意を覆すことなど…ありはせぬ！

だが…最初の破滅を退けたお前に免じて、退いてやるとしよう。より良く弄ぶことができそうだ』

そう言って、その威容は霧散する。

地上に戻ってきて、顕現を解除したエクセリアは、ひどくげっそりとしていた。

エクセリア

「…まだ、ここに元凶が残っている。それを倒してから、本題に移ろう」

空亡 (checkpoint 2)

君達は、その後何事もなく、エルバースラズ大空洞の最深部に辿り着いただろう。

そこには、呪いが渦巻いていた。

エクセリア

「…これは…エルバースラズ大空洞に元々あったものではない…」

そこに、獣の咆哮が響く。しかし現れたソレを、獣と呼ぶべきか…。

特大級の呪い——それが、そこに在った。

敵：呪いの王、モルゴース

君達は、それを制圧した。しかし、『呪いの王』…すなわち呪いの権化であるためか、モルゴースは未だ倒れない。

エクセリアはそれを見て、自身の手で自らの刀で傷をつけ、その血液から発せられた紅焔を刀に纏わせる。モルゴースが吼える。血炎を纏い、その刃渡りを増したその刀は、いとも容易くモルゴースを切り裂く。その断面から、紅焔に灼かれていき…そして、罪を購う業炎は、呪いを糧に燃え盛る。

獣の断末魔と共に、モルゴースは炎によって浄化され、その光は天へと昇っていった。

(※GMメモ：RP待機)

問題は排除された、という思考が君達に過ぎった…、そのとき。

鈍い音と共に、空間に大穴が開いた。そこから、黒い魔動機が現れる。

財団

『やれやれ…。律の命に従い、怨嗟の化身を置いたにも関わらず…君達のような、英雄気取りの者達に仕留められてしまいましたか…。

ですが、その愚行もここまでです。何者も、律の意志に逆らうことなかれ。今ここで、滅びを迎えて頂きましょう』

そう言って、黒い魔動機の各部に仕込まれたスタビライザーが解放されていく。

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「…装甲が薄いところがあるな…。ならば…！」

(※動画用メモ：LB発動音)

唐突に端末を触り、遠方から子機を呼び出すトーレス。

その子機がエネルギーを蓄積させ、黒い魔動機に照準を合わせる。

トーレス

「強き祈り！よく飛ぶ砲！威力ある弾！大勢の邪悪！正確な狙い…！あとはそこに死があれば…断罪は成立する！目標、財団首魁アイザック！撃ちーかたー始めエッ！！」

子機がトーレスの号令と共に放った、紫を帯びた光は、悠々と大技を構える黒い魔動機の胸元を貫いた。

(※GMメモ：RP待機)

財団

『な…に…！？』

トーレス

「分らんかアイザック。人間は、そこまで愚かではないのだと」

胸元を貫かれ、墜ちていく黒い魔動機…否、財団に対して、トーレスは言った。

エクセリア

「それ、お前が言う？」

トーレス

「…格好ぐらいつけさせてくれないかね、エクセリア…」

…今度こそ、問題は排除された。

しかしこれは、…本題の序章に過ぎないのである…。

2 日目：目指せ、隠れ家の工業化

ルーシディティ・ホワイト計画（checkpoint 3）

エルバースラズ大空洞の一件が過ぎ去り、翌日。この日はひどい雨に晒されていた。

その中であらうと、エクセリアの、『律』に対する警戒が止まることはない。この計画のためだけに、各地から高純度のクリスタルを集めるほどには。

彼女が机の上で設計をし終え、並べたもの。その紙束を纏めた台紙には、「ルーシディティ・ホワイト計画」と書かれていた。

《暗魂の暁》が所有する土地を全面活用し、地上および地下の双方に巨大な構造物を建造。やがて来たる、理不尽な破滅をもたらす者への対抗手段として、地下に隠した砲台を展開する…という、なんとも度し難い計画だ。

しかしこれには、ちょっとした理由がある。

『律』——ホクトクラフトは、その気になれば己が駒を動かす舞台そのものを『片付ける』——つまりとて、用済みとして処分することさえも可能なのだと、昨日の一件でエクセリアは把握した。

では、今という時に於いて、できることは？

…《暗魂の暁》本部の要塞化以外、手はないだろう。しかし、この計画を『実行』に移せば、かなりの人数の建築士が必要になる。黒水の浄化装置なども含めて、大量に設けなければならない…というのも、厄介極まる点だった。

エクセリアの脳裏に、あの醜悪な顔が思い浮かぶ。

ホクトクラフト

『なぜ俺に気持ちよく世界の破滅をさせてくれないんだ！』

その言葉からは、額面通りの意味とは裏腹に、なにか意図を感じていた。

周囲からは、その自我と思考を否定され…その傷痕が、数年の時間が過ぎた今もなお、続いている…。エクセリアには、そのように感じ取れた。

彼が悦楽を得る、『世界を破滅させる』という行為は、その傷痕が憎悪となり、世界に向いたが故に生じたもの…なのだろう。

はあ、とエクセリアはため息をつく。

隠れ家の工業化…。

エクセリアが、『律に立ち向かうための施策』として、真っ先に思いついたのが、それだった。

<hr>

君達は、《暗魂の暁》のサロンに集められていた。

エメリーヌ

「エクセリアが唐突に言い出して…。その内容は、私にも分からないことでね…」

(※GMメモ：RP待機)

エメリーヌでさえ、困惑するような内容で…、君達を集めたいらしい。
そこへ、エクセリアが訪れる。

エクセリア

「待たせたね。…こうして集めているから、なんとなく分かっているんじゃないか？

昨日も、『律』たるもの…万象を司り、理外の力で結果を破滅へと誘うもの…『ホクトクラフト』が現れていた。そして、ここから推察するに…、この世界への破滅招来は不可避となった。よって、この《暗魂の暁》を要塞化し、律への明確な叛逆を敢行する」

(※GMメモ：RP待機)

アルテマ

『…やはり、迫ってきているのか』

『本来、交わることがあり得ない世界が交わり…、そして、そこに在る『破滅』の理が、異常に顕在化していたのは…そう言うことだったと…！』

クライヴ

「アルテマ…！？」

(※GMメモ：RP待機)

アルテマ

『…我が理を敷いた、ヴァリスゼアなる世界。

このケルディオオンに於いて、普遍的に使われている技の源である、アーテリスと呼ばれる星がある世界。

エクセリアという存在が、この世界に生まれる所以となった、ロスリックと呼ばれる都があった、『火の時代』の世界。決闘者が、カードで全てを決める世界。獣や竜が万象を司り、人が世界を制することがあまりない世界…。

それらに存在する…『破滅』の理…。それらを顕在化させることが、この世界で物語を紡ぎ続ける『律』の者…ホクトクラフトの業なのだろう』

(※GMメモ：RP待機)

エクセリアの宣言も含め…、そこに困惑が広がっていた。

エクセリア

「…戸惑うかもしれない。だが、思い出して欲しい。この世界が一体誰のものなのかを。

この世界は、この世界に生きるすべての人々のものだ。決して、たったひとりの『律』のための世界ではない」

「私達は…戦わなければならない。世界が滅びを迎えるその日まで…、人が、人として生きることができる場所を、作るために…守るために」

(※GMメモ：RP待機)

トーレス

「…やるのか。今…ここで」

システィナ

「律への、叛逆…。それを以て、人が手繰れるものではないと…」

エリック

「律だかなんだか知らねエが…、確かに、これ以上馬鹿にされるのは御免だな」

誰もが、違った反応を見せる。

エクセリア

「これは、国同士の戦争のための計画ではない。
驕り高ぶる、律を仕留め人を守るための戦いだ」

<hr>

エクセリアの所信表明の後、各自が成すべきことが伝えられた。トーレスは、ヴァルマーレと掛け合って各種砲台の設置。クライヴ、ジル、エリック、イリヤは、入手の難しい鋼材や、魔物から取れる素材の大量採集。

そして…君達には、稀少な魔物から得られる素材の採集が伝えられた。

エクセリア

「難しいかもしれないが…、『呪いの尖兵』と呼ばれるアンデッドを倒して欲しい。
そいつを倒したら…、その証拠に、『天使の宝玉』を見せてくれ」

『呪いの尖兵』の情報は、学士が握っていそうだ。

『呪いの尖兵』を求めて

君達は、スチュアートに話しかけるだろう。

スチュアート

「やあ。今度は何の用だい？」

(※GMメモ：RP待機)

スチュアート

「…『呪いの尖兵』か…。確かに、アレに使われている素材は、大抵の機械を動作させるのは容易いだろう。だが…強すぎるんだ」

君達は、『強すぎる』という単語に惹かれただろう。

スチュアートはさらに話す。

スチュアート

「君達は、確かに強いんだ。だけど…『呪いの尖兵』…すなわち、アンデッドと化した魔動天使は訳が違う。兎にも角にも強いんだ…、他の誰も理解されないほどに」

(※GMメモ：RP待機)

スチュアート

「『呪いの尖兵』は、幻想の塔の前にいるという。準備は、しっかりしていってくれ」

呪いの尖兵は、マンダラム村と幻想の塔の間の領域に現れるという。

穢業

君達は、マンダラム村と幻想の塔の間にある道に辿り着いた。

エフェメラル参道に含まれるそこに、それはいた。

それは、複数体のアンデッドと共に在った。

それが君達を認識すると、音にならない声を出して君達に敵意を向けた。

敵：『呪いの尖兵』ヴァージニア、カースセンチネル・スケルトン×4

君達は、ヴァージニアを撃破した。ヴァージニアの身体は一瞬のうちに消失し、後には割れた魔動機球が残った。…否、それだけではない。魔動機球の付近には、翡翠の宝玉があしらわれた指輪が転がっていた。ヴァージニアの遺品だろうか。

危険感知判定 目標値：23

成功時、感覚的に言うならば、ジェットエンジンの噴射のような音が聞こえる。

????

「やっぱりおくれた…って、うわぁ…倒せてる!？」

(※GMメモ：RP待機)

????

「エクセリアさんってば、私をなんだと思っているんですかねえ…。13年前のカルゾラル事変で、私を従えて…他の魔動天使たちの覚醒を促してからと言うもの…、こき使うことが多いですかね？アデライテにぐーぱんぶちかましたのは、ほんの4年前ですが…」

PC への選択肢

- ・ さっきのやべー魔物がまた出た！？
- ・ 誰だあなたは！？

(※GMメモ：「さっきのやべー魔物がまた出た！？」ここから)

君達のその発言を聞き、その魔動天使はぽかーんとするだろう。

無理もない。「さっきのやべー魔物」と言うものに関して、その正体については勘付いてはいるものの、実際に体験したわけではないからだ。

????

「…わたし、魔物じゃないよ？」

(※GMメモ：「さっきのやべー魔物がまた出た！？」ここまで)

(※GMメモ：「誰だあなたは！？」ここから)

????

「よくぞ聞いてくれました！私は…」

(※GMメモ：「誰だあなたは！？」ここまで)

リリアーナ

「私はリリアーナ。『八十八翼の姉妹』のひとりにして、エクセリアに付き従う魔動天使です」

君達は見識判定を行わなければならない。

見識判定 目標値：7

成功時、さらに続けて精神抵抗力判定。

精神抵抗力判定 目標値：25

成功時 1d+6、失敗時 2d+9 点の MP 減少。これによって、12 点以上 MP が減った場合、10～12 を振り直しとする「バニッシュ／ファイアー表」を振る。

(※GM メモ：阿鼻叫喚の RP 待機)

…あんまりにも有名すぎる名前であるせいで、君達に動揺が走る…！

PC への選択肢

- ・(◁)バカ
- ・どういう…ことだ…！？

君達の困惑をよそに、リリアーナが口を開く。

リリアーナ

「それでね？私は…別の用事をしていたら、主君に『呪いの尖兵を倒しに行け』と言われて、いざ行ってみたらこんな始末で…」

(※GM メモ：RP 待機)

リリアーナ

「…いつまで発狂してるんですか」

発狂している君達を、つんつんと指で突き始める。別に壊れたわけじゃないのだが、リリアーナは己の存在の偉大さに全く気付いていないのだ。主君が始原の十四席なだけに、気付かないのは是非もなし。

(※GM メモ：PC の発狂ロールが終わり次第、次セクションへ)

隠れ家での一件 (checkpoint 4)

…発狂祭りから、数週間後。

隠れ家の地下で、君達はそれを見た。緻密に作成された、工業化施設の群れ。

農業に、工業、そして保管。工業を活かした治療施設に加え、圧倒的物量によって形成された料理部門までもがあった。

蘆田

「いざ頼まれて、設計図を見たら、流石に仰天したよ。まさか、本気で『律への叛逆』を成そうとしているんだな、と思ったぞ」

ベルリオーズ

「まァ…これでも足りるかは不明だがな。ゴルディオンクラッシャーを弾き飛ばせたのは、ほぼ奇跡だったよ」

リリアーナ

「しかし…この施設の動力源は…」

トーレス

「分からんか、リリアーナ。永久光発電機。ヴァルマーレにて、『幻の発電機』とも言われた発電装置だよ」

エミリア

「おまけに、律の直接干渉を想定して、地上にはとんでもない砲台を作られる羽目になって、大工も鍛冶師も総動員。…まァ、パーツをエクセリアが創ってくれたもんだから、労力は想定以上に軽かったけどね」

アンドレイ

「おかげでエクセリアの魔力はカラカラになっちまったようだがな」

アンドレイの横で、魔力が枯れた影響か、車椅子に座っているエクセリアが見えた。

意識ははっきりとしているようで、単純に立っているのがしんどいとかそういうレベルであるようだ。

エクセリア

「120cm 対地対空両用磁気火薬複合加速方式半自動固定砲…それを 3 つのレイヤーにそれぞれ 8 基、16 基、32 基の…合計 56 基、隠れ家北方の平地に置いた。勿論、『ルーシディティ・ホワイト計画』の一部で用意したよ」

蘆田

「イカれた数の砲門を発注したと思ったら、そういうことだったのか」

(※GMメモ：RP待機)

地上の、《暗魂の暁》本部の北——なにもない、開けた平地は…、何もないが故に、誰もそこに寄りつかなかった。そこに、今は大量の砲台が並んでいる。

砲台…正しく言い直すならば、『120cm 対地対空両用磁気火薬複合半自動固定砲』——それが存在する世界では、『ストーンヘンジ』なる異名を持つそれを、エクセリアは創造魔法を以て創っていた。最も、電子的な部分には創造魔法の手は及ばなかったため、パーツの作成にしか使っていないのだが…、それでもエクセリアの魔力が枯れるほどの建造物であることに変わりない。

その砲弾の装填機構も含めて作ったのだ、立つこともままならないほど魔力を使っても文句は言えないか。

いずれにせよ…その砲台ですら、『ルーシディティ・ホワイト計画』の一端に過ぎないのだ。蘆田も、この計画の全てを聞いたときには…それこそ困惑した。

冒険者+知力判定 目標値：23

成功時、超える力（過去視）が発動する。

（※GMメモ：「メモ群-過去視：ルーシディティ・ホワイト計画の全貌」を解放）

君達が過去を見終わったころ、エクセリアは車椅子に座ったまま、君達に声をかける。

エクセリア

「…ルーシディティ・ホワイトっていう単語について、何かしら見当がついたか？」

（※GMメモ：RP待機）

エクセリアは、君達の反応を見て、少し笑みを浮かべる。

エクセリア

「なぁに、単純な話だよ。…澄んだ白。この基地全体に対する計画だから、<ruby>澄んだ白</rt>ルーシディティ・ホワイト</ruby>と名付けた。

そして…、この基地の名前は、『白樺澄基地』だよ」

注意：3日目はシナリオが急激に変化します。アイテムの準備は、次のセクションに移動した場合、やり直しが利かなくなります。ご注意ください。

また、3日目シナリオで全滅した場合、チェックポイント5からのリスタートになります。入念に準備をしてから進みましょう。

3 日目：現れた災禍の芽

全ての元凶（checkpoint 5）

…後日。

エメリーヌは深刻そうな表情で、1 枚の紙を見ている。

（※GM メモ：「メモ群-クエスト：題名なし」を解放）

エメリーヌ

「概要も内容も薄っぺらい…。しかし、この値段…。明らかに、彼らをおびき寄せようとしているわね」

そう言って、エメリーヌは君達の元へ向かう。

しかし時既に遅し、君達の話題の中心は、その謎めいた依頼だったのだから。

（※GM メモ：RP 待機）

エメリーヌ

「あなたたち、そんな依頼を受けようとしているの！？自殺行為よ！」

（※GM メモ：RP 待機）

君達は、それに対して意に介すことなく受諾・現場へと向かってしまう。

<hr>

君達が指定された、『禊の聖地』に、それはいた。

ホクトクラフト

『待っていたぞ、クソガキ共。お前達を直接捻り潰すため、俺は念入りに準備をした…。

そうして得た答えが、「お前達に極限の辛苦と絶望を味わわせて念入りに殺す」という手段だ』

ホクトクラフトは、そう言って指を鳴らす。

音はなかったが、君達の周囲に黒い霧が現れる。

ホクトクラフト

『律の名に於いて、お前達への塵殺を実行する。だが…今俺がお前達を塵殺し、この物語を閉じた場合…十中八九、その魂は別の物語へと転移するだろう。』

俺はそれを許しはしない…今ここで、この物語の羅列ごと消え失せてもらう。そのためにも…まずは、お前達の力を測らせてもらう』

黒い靄から、細い靄が現れる。

そしてその細い靄は、形を成していき…『それ』は君達に明確な殺意を向けた。

ホクトクラフト

『さあ、お前達の力を見せてみる』

敵：呪いの指先×8

君達は、呪いの指先を破壊した。

ホクトクラフト

『…限界を超えた力でさえ、その程度か。ならば、俺との差を思い知れ。』

これが、滅尽の意志だ』

生命抵抗力判定 目標値：25

成功時半減で、「2d+60」点の呪い属性確定ダメージ（HPは最低1残る）。

ホクトクラフト

『…ほほう？これを耐えるか。おかしいな、この呪いは常人では耐えることさえままならないほどのもの。この場の外からの干渉か…？』

（※GMメモ：RP待機）

ホクトクラフト

『ほざくな。ならばもう一度、この呪いでお前達を殺すまで』

——呪詛の拡散まで、あと——

(※GMメモ：RP待機)

君達が何をしても、呪詛の拡散は止まらない…！

ホクトクラフト

『傾聴せよ。律の名に於いて、この場の存在定義を抹消する』

生命抵抗力判定 目標値：9999999（6 ゾロ／超越判定でも失敗）

君達の抵抗も虚しく、呪いによって四肢を拘束されるだろう。

ホクトクラフト

『我が意志は、この醜陋な物語を娯楽的かつ最終的に終わらせる能力を持っている』

5

ホクトクラフト

『我が行うのは戦闘ではない。破綻の回復であり、塵殺である。

それは徹底して、瞬間的に行われる』

4

ホクトクラフト

『この先、我々が奪う命の数に、世界は驚愕するだろう

そして、自ら自我を棄てるだろう。数十億を描くはずだった物語を』

3

足音が聞こえる。

？？？

「お前…、私が何だったのかを言いたくせに、それを鑑みずに行動を起こしたな？

滅ぶのはお前だ、ホクトクラフト…！」

呪いの靄が、唐突に切り払われる。それだけではない。黒い靄に包まれた男…ホクトクラフトの身体に切り傷ができる。

2

ホクトクラフト

『セリーヌにかまけて、俺のところへは来れないと考えていたのだから。…甘かったか』
エクセリア

「娘も大事だから、ここでこいつらを喪うわけにはいかないんだよ」

1

ホクトクラフト

『だが、もう遅い。呪いは、遍く全てに死をもたらす！』

呪詛の拡散

呪いが放たれる。

しかし…その呪いが、世界に拡散するその前に…それが精霊へと還元され、消失する。

ホクトクラフト

『なに…？』

(※GM メモ：PC たちの HP・MP が全回復し、さらに LB ゲージが 3 段階チャージされる)

ホクトクラフト

『いいだろう…。今の俺の実力に敵うかどうか…今ここで、俺が見定めてやる』

敵：ホクトクラフト

ホクトクラフトは、その HP が 70%以下になった瞬間に、手番の順番や行動状態に関わらず行動し、履行技『コントロール・オルト・デリート』を実行する。

履行技詠唱中のバリアは、どれだけ火力を出したとしても、必ず 1 残る。

君達は、ホクトクラフトに圧倒された。

君達のうちのひとり…、盾役の者の首を右手で鷲掴みにして持ち上げ、気味の悪い笑みを浮かべて言う。

ホクトクラフト

『やはり、駒は駒だな。俺にはちっとも届かない』

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「そいつはどうか」

エクセリアがそう言うと、鷲掴みにする手を切り払う。落ちた手は地面に転がると同時に消えるが、それと並行して、切り払われた手が再生する。

ホクトクラフト

『相変わらず律に刃向かうか、エクセリア。お前はその身をまどかに捧げ、世界の破滅を確定させるためだけの駒なのだぞ？』

エクセリア

「私はお前の玩具じゃない」

(※GMメモ：RP待機)

そう言って、エクセリアはホクトクラフトを蹴り飛ばす。

ホクトクラフト

『本気で刃向かうならば…、こちらも相応の態勢でかかるとしよう。

…これから起こる災禍に、恐れ戦くがいい』

そう言って君達の前から、ホクトクラフトは消失する。ふと空を見上げると、燃えた空が晴れ、流星が止み、通常为天候が回るようになっていた。

そこにホクトクラフトの音が響く。

ホクトクラフト

『俺に答えを突きつける前に…、動き出した災禍を祓い、俺の思想の塊を弾き飛ばしたのならば…、お前達に、俺に挑む権利を与えよう』

邪悪の気配が消える。

エクセリア

「…終わったみたいだな…」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「さて…、説教は帰り道ですとして…、永久光発電機に火を入れるぞ」

そうして、帰り道で死ぬほどキツい説教を、君達は受けつつ。

無事に、帰還を果たすことになった。

<hr>

帰還後、エクセリアの私室にて。

エクセリアの私室に設けられた手紙箱に、手紙が一通届いていた。

手紙中のホクトクラフト

『まさか、そこまでして抗ってくとは思わなかったよ。

滑稽な抗いかただったが…、それが、お前達の意志なのだな。

ならば、彼らを鍛え上げたらどうだ？この物語は、曲がりなりにも、お前が記した「エクセリアの追想」なのだろう？』

その手紙は、半分挑発的な内容だったが…、エクセリアはそれに対してある種の同情の念を抱いていた。

エクセリア

「確かに、いい加減手ほどきをしたほうがいいか」

エクセリアはそう言って、部屋の外に出る。

白樺澄基地、起動（checkpoint 6）

君達は、白樺澄基地に来ていた。

エクセリア

「さて…。この施設に備えられている永久光発電機は…256基。それら全てに、とは言わずとも、最低限4基に火を入れる必要がある。今はまだ、動いてすらいないからな」

（※GMメモ：RP待機）

トーレス

「だが、どうするつもりだ？外部電源を、トレミーから突っ込むのか？」

エクセリア

「トレミー単独だと、ちょっと出力が足りねんだな…」

トーレス

「艦載機を使うさ。…ああ、トーレスだ。そうだ、全機体のドライブのリポーズを解除。電力を外部に供給できるようにしておいてくれ」

松明によって照らされていた『白樺澄基地』が、徐々にその本性を露わにする。

天井に張り巡らされたランプに光が灯り、さらに鈍く低い音が周囲に響く。

（※GMメモ：RP待機）

エクセリア

「…電力は？…クソ、まだ出力が足りないのか…！」

リリアーナ

「主君…」

エクセリア

「君の手を煩わせるほどじゃないよ、リリアーナ。…最も、ツインドライブ1構成分の電力が足りてないって言う話だがな」

外部電源供給により、ランプに光が灯ったが…、しかし、主電源である永久光発電機に火が入っていないのか、電力が低水準になっていた。

それを見て歯がみするエクセリアだが…、君達は、ツインドライブシステムを内包した存在を知っているはずだ。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「リーンの太陽炉…？確かに、アレはツインドライブだが…」

そこへ、当のリーンが現れる。

リーン

「どうしましたか？」

エクセリア

「ああ、実はな…」

かくかくしかじか。

リーン

「あー…、アレは私自身ではなくて支援機にくっついてるんですよ…」

一応持ってきていたのか、リーンは〈ザンライザー収納スフィア〉を使い、中にしまっていたザンライザーを出現させる。そして、ザンライザーに組み付けられていた、外部出力用ケーブルを露出させる。

トーレス

「…繋ぐぞ」

そう言って、トーレスは白樺澄基地の電源供給システムに繋がるケーブルをザンライザーに接続する。リーンはザンライザーに搭載された超小型太陽炉のリポーズを解除し、ツインドライブシステムを有効化する。

エクセリア

「…電力は足りているが、永久光発電機の起動には至っていないようだ…。トーレス、この状況をどう考える？」

トーレス

「…分らんか。この白樺澄基地に、電力を食っている魔物がいるってことだ。君達は電源室に向かってくれ。そこに目標がいる」

<hr>

超巨大電源が併設されている、白樺澄基地・電源室。

そこに、雷属性を溜め込んだ魔物がいた。どうやらそれが、永久光発電機の起動に使うはずの電力を食っている元凶であるようだ。

魔物が君達を見つける。獲物をとられると考えたのか、魔物は君達に敵意を剥き出しにした。

敵：ライトニングパンサー×n、クアール×1

ライトニングパンサーの数は、PC 人数に応じて変化し、最低 4 で「PC 人数」体を基準とする。

君達はクアールを仕留めた。

その直後、君達の通話の耳飾りに通信が入る。

エクセリア

『…電源供給が正常化した。間もなく基地全体の永久光発電機が起動する。今すぐ戻ってきてくれ。白樺澄基地が目覚めよう』

<hr>

白樺澄基地の補機として、設置されていた永久光発電機。それらが徐に唸りを上げ、電力を吐き始める。

そして、白樺澄基地の下層に設置された、32 基の核融合炉に火が灯る。

それらが、投入された重水素とベリリウムを反応させ、プラズマを生じ…、そして、併設されたプラズマタービンにそれを供給する。

供給されたプラズマを受け、ゆっくりと回転を始めるプラズマタービン。

それら主機の発電が安定しだすころ、各種システムが正常に起動する。システムが垂れ流すメッセージの群れを司令室で見た君達は、起動を果たしたこの施設に対してある種の達成感を覚えるだろう。

エクセリア

「やっと目覚めたみたいだな…。これが、白樺澄基地だ」

(※GMメモ：RP待機)

白樺澄基地。その本性を露わにした、人の手によって造られた猛獣は、世界に滅びを与えんとする律に対する剣となったのだ。

エクセリア

「…よく聞け。1週間後に、私は君達に手ほどきをする。…今までの研鑽の結果、私にきっちり示してみせろ」

報酬

経験点

- ・基本：1000 点
 - ・題名なきクエスト：500 点
- 合計：1500 点

資金

- ・基本：2500G
 - ・題名なきクエスト：20000G
- 合計：22500G

名誉点

このシナリオに名誉点報酬はありません。

成長回数

- ・基本：15 回
 - ・題名なきクエスト：10 回
- 合計：25 回